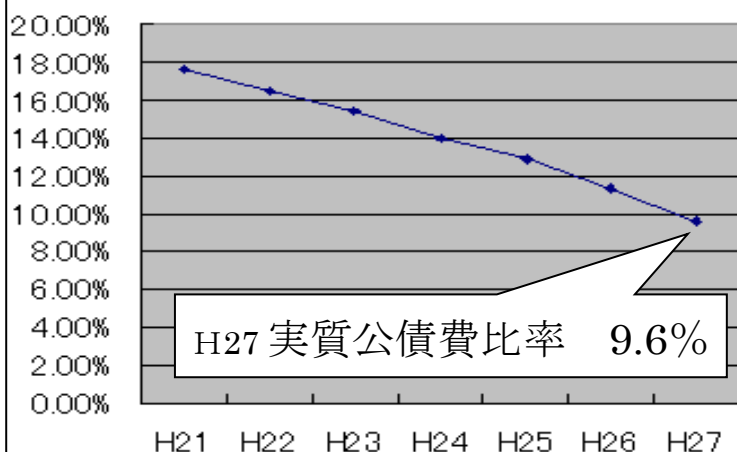


平成 28 年 9 月 7 日～9 月 21 日の日程で「平成 28 年度・第 3 回下妻市議会定例会」が開催され、議案 12 件、報告 4 件、認定 8 件、請願 3 件（継続 2 件含む）が上程・審議され全議案可決承認されました。また、意見書 3 件が国等へ提出されることとなりました。

【平成 27 年度 財政健全化判断比率の報告がありました】



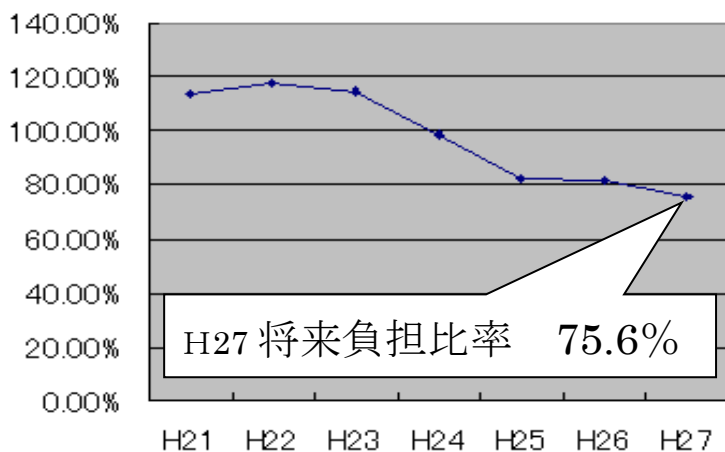
実質公債費比率

自治体の収入に対する負債返済の割合を示す。
通常、3 年間の平均値を使用。

18%以上だと、新たな借金をするために国や都道府県の許可が必要、25%以上だと借金を制限される。

平成 19 年には 19.3%だった指数が回復しています。

H26 年の時点で県内 6 位！



将来負担比率

地方公共団体が現在抱えている負債（地方債の返済額及びこれに準じる額）の大きさを、財政規模に対する割合で表したものの。

この比率が高いと、将来的に財政が圧迫される可能性が高くなる。都道府県・政令市では 400%、市町村では 350%を超えると、危険水域と考えられる。

経年変化を確認しますと下妻市の財政健全化が進んでいるのが分かります

【東海第二原発運転期間 20 年延長の申請をしないよう求める請願を採択しました】

下妻市議会では平成 24 年 9 月「東海第二原発の廃炉を求める請願」を全会一致で採択したのに続き、今回「東海第二原発運転期間 20 年延長の申請をしないよう求める請願」も全会一致で採択しました。

この 2 つの東海第二原発の再稼動に否定的な請願は、県西・県南地域において採択されやすく、原発立地自治体周辺の議会では否決されることが多くなっています、これは原発産業に従事する住民がどれだけいるか（産業の利益代表となっている議員がどれだけいるか）によって判断が分かれているからだと思います。

このことから、原発再稼動是非の判断の際、両天秤に乗せられているのは、「国民の安全」と「業界の利益」であるということが言えます、我々一般の国民は自分の安全が軽視されていることに、もっと怒るべきではないでしょうか。

以下、東日本大震災の際、福島・東海 2 つの原発がどのような状況だったのか、当時の菅首相と村上村長の言葉です。

【福島第一原発の状況】

菅直人首相（当時） 3.11 メッセージ 2016（HP より）
原発事故がどこまで拡大するのかそのことを一番心配しました～もしこの溶けた核燃料が、原子炉の外に出ていたら、福島原発から 250 km 圏内、これには東京まで含まれます、そこに住む 5,000 万人の人が、30 年 40 年という長期に渡って、避難をしなければならない、この本当に瀬戸際でした。

【東海第二原発の状況】

村上達也東海村村長（当時） 2013 年 11 月 17 日談話
発電所の海側、ディーゼル発電機を冷却する非常用発電機がある水中ポンプ室も 5.4 メートルの津波が襲いました。防潮壁がつくられていましたが 6.1 メートルとわずか 70 センチの差で、しかも 3 月 9 日完成と地震のわずか 2 日前でした。もし防御壁が完成していなければメルトダウンしていた可能性が極めて高いといえます。

【一般質問】

～砂沿サンビーチ～
について

本年度は、悪天候もあり単年度で1,800万円の赤字見込みとなりました。経年では1,700万円の黒字であり、来年も営業可能と思われますが、老朽化の課題があり、市は長期に渡る営業は考えていない状況です。斯波は、民間委託の道を今一度探るべきではないかと提案しています。

Q) 前回質問で民間企業への指定管理を提案した（斯波個人として、企業の訪問もしている）その後の経緯は？

A) 民間企業側としては「相談は受けられるが、受託するかどうかは、市の方針が決定し、正式に話が来てから検討」するとのこと、サンビーチの土地は県所有であり、公園施設の又貸し・使用权の譲渡は認められていない、（県の意向が重要であり・市単独では決められない）民間から話があれば県との協議を考慮したい。

再 Q) サンビーチ存続のため、県を巻き込んだ協議が必要と考える、県に打診できないか？

A) 指定管理も一つの選択肢、（民間から）話ができれば、県とのパイプをつなぐことはやらせていただく。

【一般質問】

～WaiWai ドーム(子育て支援機能)～について

伊勢甚ジャスコ跡地にて工事が進められている、交流広場（WaiWai ドーム下妻）において、子育て支援機能が整備されるにあたり、これまで児童館的施設の必要性を訴えてきた中で提案してきたことなどを、改めて提案しました。

Q) サンビーチとの連携が重要、コミュニティバスの活用で、市内へサンビーチ入場者の誘導を

A) 連携は重要と認識、連携による地域活性化を検討する（コミュニティバス利用者へのサンビーチ優待券配布等）

Q) 子育てに関する情報提供機能・相談機能を持たせるべき 情報提供スペース（ラック・壁）の確保、子育て支援課からの相談担当者の派遣、をすることは出来ないか？

A) 利用目的の範囲内で、可能な限り実現できるよう検討してまいりたい。

Q) 子育て支援機能の集約化で子育て応援のまちをアピールすべき、「うえるきっず」「子供食堂」を移転出来ないか？

A) 「うえるきっず」は目的外使用となるため困難、子供食堂は事業者（茨城コープ・下妻社協）から申請あれば可能。

Q) にぎわい創出のためには多くのイベントが行われることが必要、市民団体等にどのように働きかけるか？

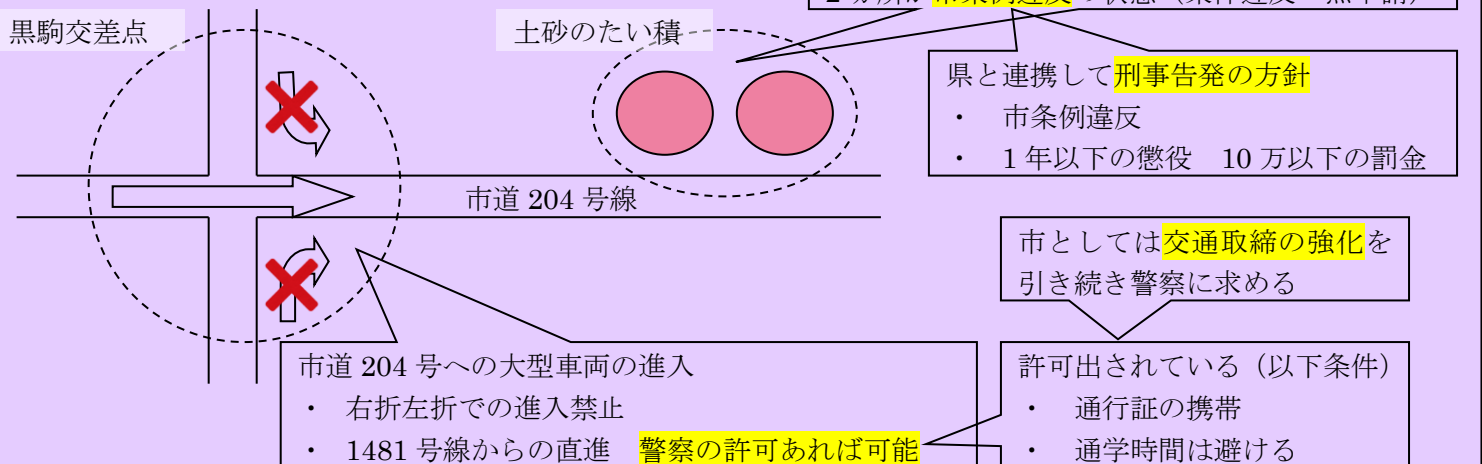
A) 設備の充実・利用価格の減免等で利用促進、既存の補助金は終了するが同様の制度等、支援のあり方を検討。

【一般質問】

～市道204号線
大型車両通行～について

市内半谷地区において土砂がうず高く積まれている箇所があります。崩れ落ちるのではないかと懸念を与えるとともに、当該地へ続く市道204号線を大型車両が頻繁に通行するようになり、地域生活に様々な支障をきたしています。地域からの要望書提出に合わせ、状況の改善を図るため質問しました。

【当該問題の現状と今後の市の対応】



※許可は期限付き